
とある科学の超電磁砲？

阪神虎之介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

「」のPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある科学の超電磁砲？

【ZZマーク】

N4207X

【作者名】

阪神虎之介

【あらすじ】

学園都市で過「」す風紀委員が繰り広げるデータバタハチャメチャな物語

THE・プロローグ（前書き）

始まり～始まり～

THE・プロローグ

東京の西部を開拓しイロイロな研究所がそこにぶち込んだ結果、世界有数の科学都市が生まれた。

人はその名を「学園都市」と呼んだ。

チンピラ「なんなんやー」の女ーホンマに人間か！

チンピラはある女と対決していた。

そこに「チンピラ達が絡んだがその女が強く、10人程いた方達がすでに1人になっていた。

チンピラ「男として負けたらあかん、只でさえ男性の地位が下がつてゐるのに俺達がこんな小生意気なガキに負けたらさうにアカン」

「この女、『どうしたのよ、早くかかってきなさい』

「！」の女は頭から電撃見たいなのを繰り出した。

チンピラ「前言撤回、逃げる」

チンピラは逃げ出した。

チンピラ「あ～も～ツいてない！金貰おうと思つて絡んだねえちゃんがあれじゃとてもやつてられんわ」

チンピラは路地を走り回るが

チソピラ「へ？」

【ゴッ！】

チャンピラ「ギャ！」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「『風紀委員』です、暴行未遂の現行犯で拘束しますの」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子。「おとなしく観念してくださいな」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子。「さもないと腕をへし折りますわよ?」

チンピラ「話聞いてる！？観念してるがな！？アダダダダダー！」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「確保！…さて
つと

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の手はチンピラに手錠をかけると路地にいる「この女」に声かけた。

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子「風紀委員」です
のーそちらの方大丈夫ですか？今助けにー」

そう言つた瞬間、「この女」は後ろを振り返り、一言。

この女「あー黒子」

ツインテールのピンクの髪をした背の小さい女の子もとい黒子「…
…通報にあつた路地裏に連れ込まれた女性といふのは、お姉様の
事でしたの…」

この女もといお姉様「どーしたの？」

THE・プロローグ（後書き）

次からオリ主初登場

THE・オリ主（前書き）

オリ主初登場

THE・オリ主

「」は柵川中学校、「」くありふれた学園都市の中学校である。

全校生徒は勿論「学園都市能力検定」をやり、自分の能力と級がわかつている。

まあそれはどの学園都市の学校もそうだけど

一年生の教室にて

男？「」

女？「」

二人の男女が気持ちよく寝ていた。

先生「……………（怒）」

勿論、先生は黙つて二人の事を見つめてゐる。

男？「オイ、起きろや」

女？「佐天さん起きてください」

女？もとい初春飾利は女？もとい佐天涙子を起こさうと試みる。

佐天「うん…」

起きる気配はない。

男？「おい、起きんか！起きろよ……起きないな

この初春と違い、更々起こす気が無い男、桜井広はぐつすり寝てる
男、熊谷雅布くまがいまさのぶを教科書で殴つた。

雅布「グhaar！？」

雅布は起きた。

雅布は辺りを見回すと…

雅布「おい桜井起きろ」

桜井「起きとるわ」

先生「おい佐天早く起きろ」

佐天は勢い良く起き上がり…

佐天「え、あ…すみません！」

先生「二人共廊下に立つてろ！」

佐天「はー「ヤダ」い」

先生「熊谷！何がやなんだ！言つて見ろ！」

雅布「だつて寝てただけですよーー?」

先生「能力に関する重要な授業だ!寝るなんて言語道断!廊下に立つとけ!」

雅布「俺レベル4なんですけどーー?」

先生「関係あるのか!?-レベル5田舎者なーいのか!-?」

雅布「はいーー!」

桜井「堂々とこいつとか…」

さすがの先生も

先生「ふざけんな!立つてーー!」

雅布「へい」

先生「つたく」

結果的に雅布は風紀委員じや異例の学年指導を受けるハメになつた。

桜井「雅布つて風紀委員だつたんだ…」

初春「あまり認めたくないですけどね…」

・・・・・

・・・
「風紀委員第177支部にて」

そこには『スクワードをやつている初春と始末書を書いている白井黒子とスナック菓子を頬張り昨日の阪神の結果を眺めている雅布がいた。

雅布「昨日は広島に3-1か…鳥谷5号2ラン…岩田の完投か…」

黒子「雅布もちゃんと風紀委員としての自覚を持つて欲しいのです、最近雅布の仕事にはやる気が感じられないのです」

雅布「だつて風紀委員つて学校内だけじゃん」

初春「それはそれでそつけど…学校内以外の事件を取り扱うのは基本的に『警備員』の仕事ですし…」

雅布「白井みたいにさ、学校外でも暴れる奴が普通だつたけど…」

個法「デスクワークも普通の風紀委員の仕事も大事な事よ」

雅布「いきなりなんですか！？」

この「アンタ誰だよ！？」見たいな感じで話の中に乱入してきた方は個法先輩

え？「個法先輩」じゃなくて本名で書けと？

じゃ名前教えるやーーー！

個法「昨日の阪神はもう一からわざと雅布は巡回してきて、黒子は第7学区で起つた『学舎の園の生徒襲撃事件』の調査を

雅布「それどう考へても犯人変態だよな…バカだろ…」

個法「雅布！ーーー！」

雅布「ヘイヘイ！」

「この名は「風紀委員のつつけ者」熊谷雅布

そいつの詳細はまた何処で…

THE・オリ主（後書き）

次回は人物紹介です。

あと個法先輩の名前、ガチで知らないんで知ってる人教えてくれい

THE・登場人物紹介 熊谷雅布 and 桜井広（前書き）

二人だけだす

THE・登場人物紹介 熊谷雅布 and 桜井広

熊谷雅布くまがいまさのぶ 榎川中学に通う一年。一応この作品の主人公、レベル4で黒子と同じ能力と言う稀に見る同一能力の持ち主。上に二人兄がいるが、出すからそん時で。合気道、柔道など格闘術に長けていることから風紀委員からスカウトされ入ったのはいいがその結果「風紀委員の両さん」や「うつけ者」と呼ばれるハメに大の阪神ファンである。

桜井広さくらわいひろ…雅布と同じく榎川中学一年。レベル2の電磁を扱う能力だつたと彼は語る。雅布とコンビを組んでいる。実は風紀委員なのだが…雅布曰わく「風紀委員の鬼」

THE・登場人物紹介 熊谷雅布 and 桜井広（後書き）

「こちら葛飾区亀有公園前派出所」に触れた所はありますが、「こちら葛飾区亀有公園前派出所」は原作じゃないので、いい例えが見つからなかつたので…

THE・熊谷雅布 and 御坂美琴（前書き）

二人が初めて出会います。

THE・熊谷雅布 and 御坂美琴

その日私、熊谷雅布は個法美偉先輩に頼まれ第160支部までいくてよくわからない試験管をよくわからない施設によくわからない車で行った後、徒歩で自分の家（桶川中学校男子寮）に戻ろうとした。

雅布「何だったんだろうな？あの液体？」

私はあの試験管に入つてた液体が異様に気になつていたが、その後3分で忘れた。

私はあるコンビニに立ち寄つた。

飲み物と漫画が買いたくなつただけである。

雅布「このコンビニ立ち読みが出来るんか」

私は「このコンビニが立ち読みできると知つてたいそつ驚いた。

雅布「で、何でこんなしわくちゃになつてんだ？」

私はコンビニの漫画が全部独特な形でしわくちゃになつている。

明らかに同一犯の仕業だ…

まあどうせ近くのチンピラか小学生かなと呟つ気持ちで私は唯一しわくちゃになつていない「週刊ベースボール」を眺めた。

学園都市でも週刊ベースボールは売つている。

今週は【捕手の哲学】といつ記事だ。

ヤクルトの相川、阪神の城島、千葉ロッテの里崎と各チームの捕手の記事がワンサカと掲載されている。

私が週べに没頭してると…

「あ、新しくなつてゐる」

ある女子の声がした。

雅布は週べを読みながら横田でその女子を見た。

その女子は黒子と同じ制服を来ていた。

雅布（あれつて確かに白井と同じ制服だよな…じゃ同じ学校か…あれ？白井つて『学舎の園』の生徒じゃなかつたけ？なんでそんなリッヂマンがこんな場所にいるんだ…）

雅布はそう考へているとその女子は立ち読みし始めた。

雅布（こんな女子も立ち読みするんだな）

そんな事考へてると雅布はあることに気がついた！

雅布（「イイシ…本の隅つて手でこすりつけられてる…）

雅布はこんな高貴な女子も立ち読みをしてしわくちゃにして店員に嫌がらせするんだなあーと感じたとか

店員（立ち読みはやめてくれい（泣））

（御坂視点）

私がコンビニに新刊見にきたらちょうど私と同じくらいの人気が立ち読みしていた。

「風紀委員」の紋章をしてたから風紀委員なんだ

しかも胸バッチに「第177愚連隊」って書いてある…黒子と同じ支部なのかな？

雰囲気が近寄りたがくちょっと間を空けて立ち読みしていた。

するとその愚連隊の人が私の事をチラチラ見てる。

恐らく「常盤台のお嬢様だ」とか変な事考えてるんでしょ…

そんなのお見通しよ

（雅布視点）

アレビこの制服だつけ？「長点上機学園」だつけ？

あそこは黒か…

「桜ヶ丘高校」だつけ？

あれは別の作品だ…

「常盤平中学校」だつけ？

それは和田マークの出身中学だ…

そうだ！「常盤台中学」だ！

御坂の「常盤台のお嬢様」より程遠い雅布の思考だった。

恋愛？なつたら凄いね（笑）

「THERE」が付かなくなりました。

「THERE」が付かなくなりました。

「ひら風紀委員第177愚連隊隊長の熊谷雅布です」

立ち読み女の子御坂は新刊の立ち読みが終わつた後、何も買わずにコンビニを後にした。

風紀委員第177愚連隊の雅布は週刊ベースボールとサイダーを購入し、コンビニを後にした。

その後白井黒子宛にメールで

「常盤台に立ち読み女の子つている？」

雅布はある路地裏に入った。
・・・

そこにはさつき会つた「立ち読み女の子」がいた。

その「立ち読み女の子」の周りにピアスや五輪刈り等をした不良共がいた。

雅布（なんだい？「立ち読み女の子」は立ち読みだけじゃなく軍団でも作つてんのかい？本当にコイツ常盤台か？）

そう雅布は考へてゐたが…

不良達の身ぶり手ぶり等で「絡まれんじゃねえの？」と彼は予測した。

なんか「立ち読み女の子」の戦闘力は強そうであんなチンピラなんかひと捻りかな?と考えたが。

雅布（「）は風紀委員の仕事をやる（）

そう言って雅布は不良達に近づいていった。

雅布「え〜、風紀委員の者です。オマイラ何やつてんだ?」

不良?「んだテメヨは?」

不良?「風紀委員があ?」

雅布「風紀委員だけど?そ（）でさあ〜カツアゲとかされちゃ困るんだよ?やるなら違う場所でやって?せめてトイレでやって」

御坂（え?助けないの?）

不良?「ウザいんだよ風紀委員は!...!」

雅布「人の話聞けやバカかお前は!?」

不良?「死ねえゴラア!」

不良?は雅布に殴りかかった!

雅布は軽く避けると相手の腹にカウンターを喰らわした。

不良？「グフウ…」

不良？は倒れ込んだ。

不良？「この野郎！」

不良？がナイフを取り出して雅布に切りかかる！

御坂（危ない！）

不良？「グハア！！」

御坂「え？」

雅布は不良？が繰り出したナイフを持つての左手を掴んで手首を捻りナイフをもぎ取ると足を引っ掛け、転倒させた。

雅布「つたく大人しく事情聴取に応答すればいいものを…結果、お前らは『公務執行妨害』をやり、お縄に捕まる…バカじやねえの？」
そう言いつつ雅布は不良達に手錠をかけてゆく

不良？「畜生！なんで風紀委員が来たんだよー風紀委員は学校だけだろ！活動が！」

雅布「こういうところで検挙率をあげていると学歴に良い印象を与えるんだよ、それに俺は白井黒子見たいに無闇やたらに能力など使わん、能力なんて使つたら業務に響くからなー、こういつ『公務執行妨害による正当防衛』なら良いんだよー、管轄外だが…」

不良？「お前本当に風紀委員なのか？」の前あつた風紀委員は『そういう言ひ事していいんですか？』とかいう超超クソ真面目な奴だったが

雅布「いやいや、俺はそつ言ひ奴じやないから」

不良？「そつ言わると風紀委員も悪くは無さそうだな」

雅布「最初の頃は研修とかで格闘技覚えさせられるから喧嘩にも強くなれるよ」

不良？「考えとく」

雅布「いいけど、とりあえず一緒に風紀委員に行こうか、逮捕しちゃつたんだから聴取とうねえんといけないんだわ」

御坂「それって私も来なきやいけない？」

雅布「勿論」

こつして雅布は風紀委員第177支部に行つたところ

（白井と初春は仕事の関係で雅布、御坂と会わず）

1911年1月17日 風紀委員第177愚連隊隊長の熊谷雅布です（後書き）

次は「白球夢見て」の方をひょっと書くんで
やがりもよのじくお願いします。

レストラン（前書き）

桜井広、久々の登場

レストラン

その日雅布は桜井広とあるレストランにいた。

桜井はアイスティーを注文して本を読みながらゆっくり飲んでいたが雅布はドリンクバーの烏龍茶を飲み干した後、机に突っ伏して寝ていた。

桜井（…………ん？）

するとあることに気がついた桜井は持つてた本で雅布をたたき起こした。

雅布「いつた！なにすんねん！」

桜井「あれ黒子じやね？」

そう言つて桜井が指差す方を雅布が見ると、確かに窓側の方に白井黒子と前話で出た「立ち読み女の子」がいた。

雅布「やつぱり白井と知り合いか……どうりで先日やたらソソソソしてると思った……」

桜井「黒子と一緒にいる奴知ってるのか？」

雅布「ああ、『常盤台の超電磁砲』でお馴染みの御坂美琴様よ、先日不良に襲われている所を俺が救出、調書を取つてると『常盤台の超電磁砲』って分かった訳よ」

桜井「じゃ黒子の先輩か

雅布「しかし白井の奴なにやつてんだ? アイツ今日仕事のはずだぞ?
?」

桜井「俺達もじゃね?」

雅布「俺達はいいの、今日は『パトロールを自主的にやれ』との支
持だ」

桜井「最近俺達の仕事おかしくないか? 今日のソレといい、先日の
謎の液体を運ぶとか」

雅布「あれ俺だけじゃなくて白井も初春もやらされたらじしきゃん
? 何なんだアレ?」

桜井「俺はその液体を見てないから知らん」

雅布(確かに気になるな…)

白井「オネエエサママアアア! -! -!」

雅布・桜井「! -! -!」

知ってる人は知つてると思つが、白井黒子はいきなり御坂美琴に
抱きついた。

雅布「やはりあのアマ、レズか…」

桜井「レズか…」

雅布「手塚治虫の『MW』って言つ漫画に同性愛の事書いてあるべ」

桜井「それ確かに映画化した奴だよね?」

雅布「まあ手塚治虫は『火の鳥』とか『ブラックジャック』とかシリアルスな物も書いてあるから」

雅布と桜井が手塚治虫について語つていると白井と御坂はレストランから追い出された。

それを見た雅布と桜井もレストランから出たのであった。

レストランを出て右側を見ると白井と御坂と初春と佐天がいた。

雅布「あれ初春やん、えーと隣にいるのが…」

桜井「佐藤」

雅布「そつそつ佐藤、佐藤」

雅布（確かに気になるな…）

白井「オネエエサマアアアーー！」

雅布・桜井「！？」

知つてる人は知つてると思つが、白井黒子はいきなり御坂美琴に抱きついた。

雅布「やはりあのアマ、レズか…」

桜井「レズか…」

雅布「手塚治虫の『WW』って言つ漫画に同性愛の事書いてあるべ」

桜井「それ確か映画化した奴だよね？」

雅布「まあ手塚治虫は『火の鳥』とか『ブラックジャック』とかシリアルスな物も書いてあるから」

雅布と桜井が手塚治虫について語つていると白井と御坂はレストランから追い出された。

それを見た雅布と桜井もレストランから出たのであった。

レストランから出て右側を見ると白井と御坂と初春と佐天がいた。

『気にせずその場を通り過ぎよつとしたら

【「コン…！」】

雅布「？」

何かに当たつた衝撃を感じたので下を見ると

白井黒子の頭を蹴つっていた。

雅布「何そこで呑気に寝てんねん、蹴られたいのか？」

そう言つて雅布は執拗に白井黒子を蹴る。

初春「なんで雅布さんがいるんですか？」

雅布「何だよそれ、いたら邪魔見たいな言い方は？」

レストラン（後書き）

感想お待ちしておりますー！

銀行強盗

とりあえず話に割り込んで雅布と桜井は御坂に自己紹介した。

雅布「柵川中学に通う初春と佐藤の同級生の熊谷雅布です。」

桜井「同じく同級生の桜井広」

御坂「私は御坂美琴……ってアナタは知ってるのよね……」

そう言って御坂は雅布に目を向けた

白井「え……お姉様どこでこんな野蛮人と……」

雅布「先日コイツが不良達に囲まれていてさー、まあ色々あつて止めたわけだ。んで被害者のコイツの調書を取つただけだ」

白井「そうですの」

初春「だけど雅布さん田上の人『コイツ』は無いと思いますよ」

白井「そうですの雅布、お姉様は中学2年ですよ」

雅布「え?」

雅布「そうなの!?」

3人の身長の比

御坂 < 雅布 < 桜井

御坂「え？ あなた中1だったの？」

雅布「じゃあ何歳だと思っていたんだ？」

御坂「高校生くらい？」

雅布「ケツ…」

雅布はそう吐き捨てる

雅布「さて俺らは警邏に行きますかあ」

桜井とどつか行つてしまつた。

御坂「何なのアイツは？」

白井「申し訳ございませんお姉様、彼は団体と見かけは野蛮人ですが性格は良い方なのです」

初春「白井さんの言うとおり雅布さんは良い人ですよ」

佐天「私の事を佐藤とか言つたけど…」

初春「知らなかつただけだと思います」

雅布と桜井はある広場に着いた。

雅布「あ～、ダリイ」

桜井「アイスでも食おうぜ」

雅布「そうだな」

そう言つて雅布と桜井は色々な所で暇つぶしをした。
やつこじつへると

【ズガーン！】

いきなり爆発音が聞こえた。

雅布・桜井「？」

雅布と桜井が爆発音のする方を見ると

近くの銀行から煙が出ていた。

雅布「銀行強盗かな？」

そう言つと銀行の中から

？「よつしや引き上げるぞー！」

？「？」ヘイー！

雅布はテレポートを使い犯人達の所へ行つた。

雅布「風紀委員だ！ぶつ飛ばす！」

桜井「罪状言えや！」

？「嘘！なぜ……」
ハハハ！オイ見ろよＷまだガキだＺ…グ
ボハア！」

いきなり？は雅布に殴られて倒れた。

？「このガキヤ！」

？が巨体を揺らして突撃！

ハイ！ヒラリとかわして引っ掛けた。

？」
ケン元！

そしてその先には……

？「…………」

【ズーン！！】

？？はくたばつた。

さあ、残りは？ だけだ！

？」
「生畜！」

?は逃走を試みたが

【ショーンー】

雅布「つーかまーえた！」

？「ギャアアアアー！」

・・・・・

桜井「やつぱりあれだよな、お前の捕まえ方は危ないよ

雅布「そう？」

銀行強盗（後書き）

白井「私達の出番が取られたのですね」

御坂「そうね
…」

登場人物紹介その⑤ 御坂、白井、初春、佐天、個法編（前書き）

超簡単に

登場人物紹介その⑤ 御坂、白井、初春、佐天、個法編

御坂美琴…「超電磁砲」をぶつ放すお嬢様として広くその名が知られている。原作だつたら前話で超電磁砲をぶつ放す予定だつたが雅布により出番無しに追い込まれた。

上条×御坂は筆者は考えてないとの事。

白井黒子…レズ。いつも御坂に取り付いているため風紀委員の間じや「百合の黒子」とか呼ばれる。コイツも雅布により出番無しに追い込まれる。

初春飾利…只でさえ「阪神ファンのタイガース日記」の出番が無くなっているのにこつちじや白井黒子以上に出してない気がする。

佐天涙子…雅布に「佐藤」と呼ばれる。存在感出してるよつに見えるが雅布には認識されてない。

まだ2つぐらいしか台詞が無い。

個法美偉…筆者が「名前を覚えてなかつた」人。

登場人物紹介その⑤ 御坂、白井、初春、佐天、個法編（後書き）

頻繁にやります。

銀行強盗事件が終わつた日の夜

【カタカタカタカタカタカタカタカタカタカタカタカ】

雅布は血室でパソコンのワードを打っていた。

雅布ニシレテヨシト後五ノヒンを詠めて

雅布に自室の窓を開け

ハト「クルツクー」

一匹のハトを飛ばした。

（東京・防衛省）

自衛隊等、日本の防衛を担当する省の地下に秘密結社じやないがある組織が存在する。

基本的に一般人は知らない、防衛省に通う人でも知らない人がいる。

その名を「防衛省情報局」通称「MDIIS」と呼んだ。

園長「……しかしそく学園都市から」んな情報を持つてこれたな……」

雅之「幾ら学園都市でもまさか伝書鳩を飛ばしているとは考えると
は思わなかつたと思ひます」

彼の名は「熊谷雅之」

熊谷雅布の実兄である。

彼の表向きの顔は「陸上自衛隊の三佐」だがその正体は「防衛省情報局の工作員」である。

普段はデスクワークだが実際現地にいくこともある。

局長「しかし…これが『アレ』だつたら大変な事になるぞ…」

雅之「はい」

局長の机の上には以前、雅布が風紀委員の仕事で配達した「謎の液体」が置かれている。

雅之「調べた所、『GUISHO』に間違いないとの事です」

局長「そうか…」

局長室に沈黙が流れれる。

局長「それじゃ熊谷三佐は引き続き学園都市の調査にあたれ、GUISHOについてはこちうで配慮する」

雅之「了解」

・・・・・

雅布「何だと？」

雅布は返信の伝書鳩が持ってきた手紙を読んで愕然とした。

「液体の正体はGUSHO」

「Jの一言で充分だった。

雅布は「Jの手紙を見た後すぐライターで燃やし、灰にした。

調査依頼（前書き）

あのグループが初登場です。

調査依頼

雅布は液体の正体がGUSHOだと知るとある場所に向かった。

そこは平凡なレストラン。

そこに入ると4人の女子がいた。

一人は目がつり上がり鮭弁食つてる

一人は映画雑誌を眺めてる。

一人はパフェを頬張つて いる金髪外人

一人は目を開けながら寝てる電波少女

暗部組織「アイテム」のメンバーだ。

鮭弁を頬張る隊長の麦野

B級映画が大好きな絹旗

一番弱そうだけど一番重要な滝壺

それと部下一名

フレンダ「忘れてる！忘れてる！自己紹介させて！」

なんか五月蠅い蠅がいるので作者権限で抹殺

フレンダ「ギャアアアア！」

…………すると言しが続かないの

フレンダ「ホツ」

麦野「雅布か、何のようだ？」

雅布「依頼を頼みに来た」

絹旗「ぶつちやけ雅布が持つてくる依頼は超不気味で嫌なんですよ」

滝壺「大丈夫、私はそんな雅布を応援する……」

雅布「いやいや、今回は簡単ですよ、何だつて『ある研究所に行つてある資料を盗んでくる』だから」

麦野「なんで私たちがそんなこそ泥見たいな事やらないといけないんだ！！！！！」

麦野はそつと机を思い切り叩いた。

雅布「誰がこそ泥やれといった。方法は問わない、とりあえず俺は資料が欲しいだけだ」

絹旗「その資料はどんな資料なんですか？」

雅布「GUISHOっていう液体がある。それについての資料だ」

麦野「報酬は？」

麦野がそう言うと雅布は不敵な笑みを浮かべた。

調査依頼（後書き）

時期はアニメでいう「常盤台襲撃事件」の前後

アイテムのお仕事（前書き）

雅布は不敵な笑みを浮かべた。

雅布「鮭弁と鰯缶、映画雑誌でいい？」

アイテムのお仕事

～その日の夜～

麦野以下4人はある研究所にいた。

麦野「ここか…」

絹旗「超警備員がいますね」

「アンチスキル」じゃなく「けいびいん」

フレンダ「ぶつちやけ、」そ泥見たいな事をやるよつた連中、じゃないのよ

麦野「そつ言つこと言わなこのよ、さて…」

麦野はそつ言つと

麦野「じゃあ作戦実行よ」

そう言つた瞬間、研究所のどこかで爆発音が聞こえた。

警備員？「なんだ！」

警備員？「敵襲か？」

警備員の慌てる声が聞こえた。

麦野「行くよ！」

4人は警備員の田を盗んで研究所の中に侵入した。

絹旗「しかし本当に超こそ泥ですね私達、しかも任務内容の中に『敵に正体がバレない』ように』なんて、だつたら超テメエがやれって話します」

麦野「愚痴言わないのよ絹旗、その分報酬があるのだから」

絹旗「まあそりですけど…」

麦野（しかし確かに絹旗の言つとおり雅布自身がやれば成功率が高いのに…）んな地図まであるんだから

麦野はそつ考へていた瞬間…

警備員「ん？」

アイテム「…」

警備員「誰だ…？」

【ドス！】

警備員「キュー…」

麦野「流石ね絹旗」

絹旗「超お茶の子をこなす」

絹旗の蹴手繰りで警備員を倒した。

アイテムの面子はその後、監視室を襲撃し、研究所の監視システムは制覇した。

麦野「えーと、確かこの液体の部屋は…」

絹旗「ここだと思います」

麦野と滝壺が監視室に残り他の2人が麦野の指示の元、「液体」を探している。

麦野「今ロックを解除した」

絹旗「了解」

絹旗はポケットから拳銃を取り出すと、ゆっくり部屋に入つていった。

麦野「絹旗、右斜め前方に人がいる」

絹旗「了解」

監視カメラをいじりながら麦野が敵を探してそれを絹旗が処理する。

その時に絹旗は研究員に液体の所在を聞く。

そんなこんなで時間がたつた時

【ズガーンー】

突然、爆発音が聞こえた。

麦野「絹旗！-ビ-フした！-？」

絹旗「分かりません！-フレンダがいるほうから超聞こえました！」

麦野「フレンダ！-？」

すると無線でフレンダから連絡が入る。

フレンダ「ヤバいよ！-武装集団が突入してくる！」

麦野「武装集団？」

フレンダの無線の向こうからは激しい銃の音が聞こえた。

フレンダ「とりあえず、今の場所からは逃げてる！-麦野！-逃げ場所あるー？」

麦野「ちょっと待て！-！」

麦野は急いで地図を見てフレンダの位置を確認する。

同時にフレンダの追つ手を突き放すためにフレンダが通った後ろに防火シャッターを閉める。

フレンダ「ありがとう麦野！」

麦野「フレンダ！」のまま下に降りて行けば絹旗と合流できるから合流しろー。」

フレンダ「了解」

絹旗「分かりました」

・・・・・

絹旗「結局この液体は超何なんですかね？」

フレンダ「私達は知らないでいい」とよ

麦野「そつこいつこと」

アイテムはちゃんと「液体」の資料を強奪し、武装集団を退けて任務完了した。

アイテムのお仕事（後書き）

「けいおん～白球夢見て～」を次回は書きます。

新キャラ登場（前書き）

すんげ~短いです！

新キャラ登場

「アイテム」が研究所を襲撃してからの朝

麦野は第10学区のある路地にいた。

そこで麦野はある一人の男を待っていた。

その男がやつてきた。

麦野「遅刻だ」

菊池「ワリイワリイ」

男の名は菊池勇きくちよしおみ

あるスキルアウトのリーダーである。

麦野は研究所から盗んだ書類を菊池に渡した。

菊池「これが『例の書類』ですか、分かりました。ちゃんと雅布に届けておくんで！」

そう言つと菊池は去つていった。

麦野「はあ…」

麦野は溜め息をついた。

新キャラ登場（後書き）

次回から「レベルアップ編」に移ります。
けどこの話は終わってないんで

風紀委員第177支部

雅布は呑気に漫画を読んでいた。

雅布（あべ）たなあ（）

せなみは白井達に仕事に出てる

羽衣はアノレットお姫〔番：一話〕

雅布（GUSHOの件についてはMDISで調査中、結果が分かり次第動けとの事…）

今だから紹介するが雅布は雅之の命令でMDIISの諜報員もやつて
いる。

雅布（雅昭兄さんからも連絡来ないから凄いヒマ）

雅昭兄さんとはいつが出る？

ついでに登場人物紹介を見直すから詳細はそこで

そんな平和な時間を過ごしていくときだつた。

【PPP】

雅布の携帯が鳴つた。

雅布「へい」

白井「雅布ですか？緊急事態発生のため至急来てくださいですのー！」
「…」
「…」

【シュー、シュー】

雅布「……………ビニール…」

その後、初春からの連絡で雅布はある場所にいった。

雅布「こつやすげーなおー！」

桜井「興奮して言つてじやないと困つよ…」

雅布はあるお店にいた。

先ほどここで爆発騒ぎがあり、風紀委員一人が怪我をするという事態に…

雅布「で？なんで俺たちが？」

初春「177支部の仲間ですよーやられたのはー…」

桜井「へえー」

雅布「なに？白井がやられた？あーあー、番典買いに行かなーと…」

白井「死んでもせんですのー！」

雅布「なんだ…」チツ

桜井・初春（今舌打ちしたよな…）

個法「あつ、雅布に桜井來た」

雅布「来ました」

個法「橋本は病院で治療を受けているけど命には別状は無いって」

雅布「橋本って誰？」

桜井「怪我した風紀委員」

雅布「あ～、誰？」

桜井「知らないんかい…」

・・・・・

白井「というのが昨日の夕方に起った事件ですの」

白井は御坂は公園の自販機にいた。

白井「聞いてます？お姉様」

御坂「聞いてるわよ、連続爆破事件とかこうやつでしょ」

白井「正確には連續虚空爆破事件ですの」

そう言って白井は御坂が買った（正確には蹴手繰りで購入）した缶を指差し

白井「アルミを基点にして、重力子の数ではなく速度を急激に増加させてそれを一気に周囲に撒き散らす、ようは『アルミを爆弾に変える』能力です。ぬいぐるみの中にスプーンを隠して破裂させたり、ゴミ箱のアルミ缶を爆破するといった手を使っていますの、爆発の前に前兆があるので死亡者こそ出でていませんが、まだ犯人の特定ができませんの」

御坂「だつたら能力者の犯行なんでしょう？」

白井と御坂「連續爆破事件」について語っている時、雅布は…

雅布「レベルアップバー？」

菊池「ああ、能力者のレベルを上げる道具だ」

菊池からレベルアップバーの事を聞いていた。

原作キャラ未登場

菊池「今はまだ都市伝説程度だが俺はもう少ししたら爆発的に流行ると思う。だから今の内にレベルアップのあるサイトから大量にダウンロードしちゃんだよ（笑）」

雅布「そんな代物売れるのか?」

菊池「大丈夫！ 実証済みだ！ 既に10人にやらしてある」

雅布 ―― 結果は?

菊池一全員にレベル1→2の変化が表れた。

雅布一なる程

菊池：でも、こんな代物
しい、廻総委員に取り上げられるか分からん」

雅布 - アイツ二頭固しか二な

菊池 そん時はこれを1000円で売れば……

雅有 一 濁し金になるな

ソリは菊池の寮だがとんでもない量のダンボールがある。

雅布「 いじょう聞きがこのダンボールの中にある。」
○おせじりで
入手した?」

菊池「『外』の奴からスキルアウトを通じて届けでもらった一ちゃんに全部中国製！iPad！」

雅布「それどうやって発音するの？」

菊池「しかし裏の顔を持っている同士、何を考えているのか分からん！」

雅布「へつ、お前みたいなひつぽけな権力とは違はずーーー。」

菊池「じゃ何だ？ CIAか？」

雅布「……近いな」

菊池「え？」

雅布「あ、俺はこれで帰るから」

菊池「ああ、またな」

雅布「おうー！」

雅布は菊池の部屋を後にした。

雅布「さて……」

雅布は菊池が「一個ひつよ？」と言われて貰ったレベルアップバーを見た。

雅布はそれをある場所に持つて行つた。

・・・・・
雅布はある教会にいた。

と行つても十字教なんかじやない

ちゃんとしたキリスト教の教会だ。

雅布「……やつと来たか」

雅昭「悪い悪い、不良に絡まれてわあ

雅布「まさか使った訳じやねえだろうな？」

雅昭「延髓切りですんだ」

雅布「ならよかつた

しばらくして

雅之「お待たせ」

雅昭「兄さん」

雅布「久しぶり」

雅之「本当に久しぶりだな、例の物は持つてきたか？」

雅昭「ああ、これだう？」

雅昭はそう言いつと鞄を開けてあるもの出した。

雅布「兄さん、それ何？」

雅昭「学園都市の裏情報がぎつしづつ詰まつたじうぶ」

雅之「これがあれば学園都市の秘密がわかる」

雅布「それで何する気？」

雅之「喧嘩や、こいつか学園都市と喧嘩するんや」

雅布「それって戦争？」

雅之「に近いな」

雅布「マジかあ…」

雅之「そん時はお前ら学園都市にあるものを全て捨てて学園都市から逃げる」

雅布、雅昭「了解」

え？なんで外部の人間が学園都市に來てるかって？

雅之はこの時期に行われている自衛隊と警備員の合同演習のため、学園都市に來てます。

～その日の夜～

雅布「なんで停電した？」

熊谷兄弟が教会の密会を終えた日、別の所

雅布「アレ？ 御坂さんに桜井に佐藤に初春？ おまいら何してるんや？ 特に桜井、ハーレム気分になつてんじやない！」

桜井一 別にそんな気分じゃないか……」

佐天たかはら 佐藤しやなし 佐天たかはら

「ああ、熊谷くんこれから私たちシミツヒンケに行くんだけど、今暇？」

雅布「ヒマですよ」

御坂 一 じやあ行こう

雅布
一
八
九
下

雅布は御坂達と「セブンイレブン」もとい「セブンスマスト」に向かつた。

佐天「でも『超能力者』かあ、スッゴイなあ」

雅布「レベル5?すごいよねえ」アイツら、『1人で軍隊を壊滅』とか言うけど米軍とコング軍では規模が違うんだよな」

桜井「まあ確かに……」

佐天「御坂さん『レベル5』なんですよーー。」

雅布「知ってる、調書を取つた時に分かつた『常盤台のおとんばお姉さん』てな」

御坂「ビ…ビー」

雅布「あんな事件が起つたらそつ狂つわい、『立ち読み』ンビーお姉さん」

御坂「…………」

佐天「あー、『幻想御手』があつたらなあー」

初春「え? 何ですかそれ?」

佐天「いや、あくまで噂だし、詳しい事はあたしも知らないんだけど…、あたし達の能力の強さを簡単に引き上げる道具があるんだって、それが『幻想御手』」

雅布(ああ、あるし)

雅布はポケットの中にある菊池から貰つた「幻想御手」を触つた。

佐天「ま、ネット上の都市伝説みたいなもんだけさ」

初春「そりやそりですよ、そんなのがあつたら苦労しません」

佐天「でもさ、本当にあるならあたしでも…」

初春「？佐天さん？」

佐天「アハハ…なんでもないよ～」

雅布（既に噂が広まってる、菊池の言った事は案外早く来るかもな）

雅布は呑気にそんな事を考えていた。

御坂達が「セブンスマスト」に入る時、雅布はある人の視線を感じた。

見ると明らかに怪しい男がこっちをみていた。

どうやら初春と桜井を見ているようだった。

彼らは腕章を付けているから一発で風紀委員だとわかる。

（雅布は付けてない）

その風紀委員を見る目は完全に憎悪の視線だった。

雅布（お巡りさん、ここに変な人がいます）

・

佐天「へえ～『超電磁砲』ってゲームセンターのコインを飛ばして
るんですかあ～」

御坂「そうよ、まあ50メートルも飛んだら溶けちゃうんだけどね

雅布「今度から寛永通宝でやれよ、そつすれば『学園都市版女銭形平次』の出来上がりだ」

御坂「なにその注文…」

佐天「でも必殺技があるとカツコイイですよね～」

御坂「必殺技つて…」

佐天「あたしもインパクトのある能力欲しいなあ～、お～！」

佐天は店の商品であるヒモパンを持つと

佐天「初春、こんなのがいいじゃ？」

初春「はい！？無理無理無理です！そんなの穿ける訳ないじゃないですか！」

佐天「これならあたしにスカートめぐられても、堂々と周りに見せつけられるんじゃない？」

初春「見せないし、めぐらないでトモニツ…」

雅布「俺らどう見られてるの…」つらなかつたら完全に俺達変態だよ」

桜井「荷物運びとしか思われてないんじゃね？」

雅布「なるほど…」

雅布は御坂達と一緒にいたら、いてもたつてもいられない気持ちになつたためその場から離れることにした。（桜井放置）

適当にそりゃ歩歩いてると

雅布（あ、変態だ）

「セアンスミスト」の前で初春と桜井を凝視していた変態がいた。

端からみたら不審者だ。

雅布は不審者を追うこととした。

通路にある看板や商品を見ながらその不審者を追う。

トイレの前の階段の所で御坂さんに会うが御坂さん気づかず

一度こっちを振り向いたが不審の方を見ていたためこっちに気づかず。

すると不審者はまだ幼い子供にカエルのぬいぐるみをあげた。

幼い子供（女）は「お兄ちゃんあつがどーー」って言つておつていた。

雅布はふと以前の爆発事件の事を思い出した。

「ぬいぐるみにスプレーを隠し入れて爆破」

不審者はスプレーを眺めながら「フフフ」と笑っている。

雅布「オイー！そこの拳動不審の男！聞きだい事があるー！」

雅布は「風紀委員」の腕章を付けて迫る。

不審者「ヒィイー！」

不審者が逃げ出した。

只でさえ「存在が怖い」と言われる雅布が威嚇してるのである。

不審者「どうして下が「ゴミ」集積場である。

不審者は窓から飛び降りた。

雅布「面倒くせえな……」

雅布も続く

不審者は向こう側のビルとビルの谷間に逃げ込む

雅布もそれに続こうとしたその時！

【ドガーン！】

突然「セブンスミスト」が爆発した。

雅布「！！！」

雅布は立ち止まり、セブンスミストを見た。

通行人？「例の連續爆破テロだつて！」

通行人？「逃げ遅れた人がまだ建物の中に入るらしいぞ！」

通行人？「風紀委員の子を見たつて…」

通行人が口々に叫ぶ

しかし雅布はそれを無視し、再び不審者を追つた。

雅布「待たんか！！」

そう雅布は叫んで捕まえた。

雅布「あの爆発、お前がやつたんだろ？」

不審者「な…何の事だが僕にはさっぱり…」

雅布「今ここで正直に喋つたら命だけは助けてやろう、それとも自分の嘘を突き通すか？まあ『やつてません』って言つたら一回自白剤を打たなければならぬけどね」

雅布は不審者を押し倒し、持つてゐるサバイバルナイフ（護身用）を不審者の喉元に突き刺しながらいつた。

御坂「威力は大した物よね」、でも残念、死傷者どころか誰一人かすり傷一つ負つてないわよ」

不審者「なつ！そんなバカな！！僕の最大出力だぞ！――」

雅布「ん？」

御坂「ほう……」

不審者「はつ……いやつ外から見てもスゴい爆発だつたんで、中の人はとても助からないんじやないかと……」

そう言って不審者は後ろのバックからスプーンを取り出そうとした。

【ガシツ！】

不審者「うつ……」

雅布「その手にあるスプーンは何だ？」

不審者「べ……別に何でも……」

雅布「汗が凄いぞお前、なんかやましい事隠しているんだろ？」

不審者「う……あ……」

御坂「こわ……」

雅布「暴れてもいいぜー、そしたらこのナイフがお前の頸動脈をズバツと切るだけだから」『公務執行妨害による過失死』だから非はお前にある。だから暴れても結構！むしろそのほうが調書とか取らずに済むから楽だ』

御坂「あなたちょっと何考へてるの…」

不審者「…いつもこりうだ」

雅布「ん？」

不審者「いつも僕はこりうして地面にねじ伏せられるー殺してやるー！お前見たいに強い力を使う奴が悪いんだよ！力のある奴なんてのはみんなそなうが…！」

雅布「黙れ腰抜け！！」

不審者「ヒイ！」

雅布「何が『強い力』だ、俺は『風紀委員』つていう力を利用しているだけだ！『風紀委員』つていう力が無ければ俺はお前と同じ腰抜けだ！そんのは誰だつて同じだ！『力』なんてのは自分で身に付けて守つていくものだ！無い奴は『力』を身に付けようとしなかつただけ！お前は『力を付ける努力』を怠つただけだ！だからお前は地面にねじ伏せられて当たり前！『力無き者』に与えられる者は何もない！」

不審者「でも僕には体力が無い…能力も無い…そんな奴に努力をしろと…？」

雅布「そうだ！何も無いからこそ努力をする！ある1人の人間がいた。そいつは野球が好きで好きでたまらなかつたが親がキャッチボールを拒み、その子は口クにボールが投げられなかつた…それが原因で野球に誘われず、デブで運動が出来ない『クズ』って言われた。しかしそいつは独学で野球を学び、自分流でフォームを作り上げた結果！送球とコントロールが上手くなり、『なんで野球部に入らないの？』まで言われるようになつた。いいか！！下手くそや何も取り得が無い奴は作るんだよ！」

不審者「…………」

雅布「とりあえず詳しい事情は後でゆっくり聞こう」

不審者「でも僕には体力が無い…能力も無い…そんな奴に努力をしろと…？」

雅布「そうだ！何も無いからこそ努力をする！ある1人の人間がいた。そいつは野球が好きで好きでたまらなかつたが親がキャッチボールを拒み、その子は口クにボールが投げられなかつた…それが原因で野球に誘われず、デブで運動が出来ない『クズ』って言われた。しかしそいつは独学で野球を学び、自分流でフォームを作り上げた結果！送球とコントロールが上手くなり、『なんで野球部に入らないの？』まで言われるようになつた。」

御坂「何か雅布のせいで出番が取られてる……」

白井「ですの…」

「セブンスミスト爆発事件」から一夜明けたある日の事

雅布「お！白井」

白井 あづ 雅布

雅布と白井はある公園で出会った。

雅布一御坂さんも

御坂 - あらこ雅布くん

御坂さんも一緒だ。

白井「ちょうど良かったですわ、雅布、
昨日捕まえた奴で合つてますの？」
『連續爆破事件』の犯人は

雅布「は？」

御坂「え？」

白井「『書庫』の登録データでは容疑者の能力は『異能力判定』と

御坂「うそっ！？明らかに『大能力』クラスの破壊力だつたわよ！？」

やつぱりあれはレベルアップバーか
雅布

雅布は昨日不審者の持ち物にあつた音楽プレーヤーの事を思い出した。

雅布「俺が暇な時調べてやるよ」

白井「ありがとうございます」

雅布「んじゃ」

雅布は白井達と別れると第177支部まで行った。

雅布「今日は個法先輩は研修でお休みのはずだ」

雅布はそう呟いて177支部に入った。

雅布はまず最初に白井のパソコンを起動させた。

白井のパソコンには「事件を起こした能力の規模と被疑者の能力の規模が違う」「奴が入つてる」

雅布「もうこんなに入るんだ…」

雅布はそつ呟いて自分のUSBにそのデータを入れた。

その後雅布はあるレストランに向かった。

【あるレストラン】

菊池「何のようだ?」

雅布「外に出たい」

雅布「あ〜、娑婆の空氣は上手い!」

菊池「そんな犯罪者見たいな事言つなよ

雅布「んじや、7時までに戻つてくるわ

菊池「はいよ」

・・・・・
雅之「いきなり何のようだ?学園都市から飛び出して」

雅布「この音楽プレーヤーなんだけど…」

雅之に「レベルアップ」の入った音楽プレーヤーを渡す。

雅之「?何だこれ?」

雅布「レベルアップって言って自分の能力のレベルを上げる事が出来る」

雅之「ほう」

どうやつて外に出たか?

いつか書く！

雅布「オイ！」

雅之「なる程、要はこの『レベルアツパー』の仕組みを調べて欲しいと」

雅布「もしできたら開発者の名前も分かるといいんだけど」

雅之「それは難しいな…」

雅布・備も「風紀委員」の仕事として調べるかぶり

雅之「ならいいけど」

雅布「ありがとう」

雅之「しかしあ前どうやって学園都市から出たんだ？」

雅布「今日は菊池の「協力のもとで」と「うわば」

何故か擬音が入る。

雅之「なる程」

雅布「じゃ俺7時までに戻らないといけないから」

雅之「分かつた、じやあな」

• •

菊池「お帰り」

雅布「ただいま」

菊池「娑婆の空気はどうだつた?」

雅布「よかつたよ、久々に秋葉原に足を延ばしたりしたから」

菊池「秋葉原行つたの?」

雅布「行つた行つた」

菊池「何か買つた?」

雅布「鉱石ラジオ」

菊池「.....」

雅布「何か悪い?」

菊池「大量に売つてるよなそれ」

雅布「コレクションにしてる人もいるけど俺はちやんとした通信手段に使うから」

菊池「え?」

次回あの「露出魔」と出来たらアイツも出す予定

その日雅布は不意に起きた停電で「電力会社潰す!」と吠えてたが、白井からの電話で「一緒に病院まで来て」という連絡が来たため病院へ行つた。

白井と御坂が病院の待合室で待機して雅布と桜井は飲み物買いに販機へ行つた。

白井「アツイ…」

御坂 「ZZZZZ」

ガラ

病室のドアが開いた。

白井「お姉様、終わつた見たいですわよ」

御坂 「んんん」

白井「起きてくださいなお姉様～」

白井は御坂の事を起しそうとするが御坂は全く起きない。

白井「では…」Jは一つ目覚めのキスで…」

【パーンー！】

御坂「いつた！」

雅布「起きろゴーラア！！」

桜井「どんな起こし方だよ……」

雅布は途中で貰つた病院のパンフレットを丸めて御坂の頭を叩いた。

白井「…………」

御坂「顔洗つてくるわね」

御坂は自分の頭を撫でながらトイレに行つた。

????「君が担当の風紀委員かな？」

白井「はいですの」

????「待たせたね、一通りのデータ収集は完了した」

雅布「誰？あのオバハン？」ボソボソ

桜井「医者だよ医者、あとオバハンは失礼だぞ」ボソボソ

雅布「つつか何で俺らはここに来たの？誰か死んだの？」ボソボソ

桜井「何でも最近、倒れる学生が増えてるんだって」ボソボソ

雅布「へー、でアイツ誰?」ボソボソ

桜井「知らん」ボソボソ

????「それにしても…、暑いな!!」まるで蒸し風呂だな

白井「ですわね…」

桜井「暑い上にさつき雅布が自販機でコーンポタージュ買って一氣
飲みなんかするから…暑い上に熱いよ」

雅布「途中から訳分かんなくなつてるぞ」

オバハン看護婦「申し訳ありません、それが…、昨晩の落雷で送電
線が断線してしまいまして、自家発電による最低限の電力供給はあ
るのですが病棟や機器を優先しているものですから」

????「そうか、災害が原因では仕方ないな」

そん時丁度良く御坂が帰つてきた。

????「全員揃つた所で改めて自己紹介をしよう、私は木山春生、
大脳生理学を研究している。専攻はA.I.M拡散力場、能力者が無自
覚に周囲に放出している力の事だが…」

雅布「あの、そーゆー自慢話はマジいらないんで」

木山「そつか…」

白井「風紀委員の白井黒子です」

御坂「御坂美琴です」

桜井「桜井広です」

雅布「磯野勝男です」

白井・御坂・桜井（サザエさんだよそれ…、そんなつまらなさすぎて分かりやすいギャグいらない…）

木山「ミサカ…、君が御坂美琴か」

御坂「私の事、ご存知ですか？」（つていうか雅布スルー？）

木山「ああ、『超能力者』ともなると有名人だからね」

白井「さつすがお姉様」

御坂・雅布「うつさい「黙れ死ね…」

白井「…」

医者「あの…それで何かわかつたでしょ？」「…」

木山「今のところは何とも言えません、こちらで採取したデータを持ち帰つて研究所で調査するつもりです」

医者「データならこちらから送る事もできましたのに、『足労かけて申し訳ありません』

木山「いや、データだけではわからない生の情報もありますし、学生達の健康状態も気になつたので」

白井「あの、お尋ねしたい事があるのですが」

1

木山一
幻想御手？」

白井「はい、ネット上で伝まっている噂なのですから……」

木山「それはどういったシステムなんだ?」

白井「それはまだ…」

木山「形状は？どうやって使う？」

白井「わかりませんの」

木山「それでは何とも言えないな」

由井一ですわよね…

そう白井が呟いていた時、いきなり木山は「暑い」と言つては脱ぎだした。

御坂「うあ！」

白井「ちよつとなにやつてゐるんだすの〜〜〜〜〜」

木山「え…、だって暑いから…、それに別に恥ずかしくないし…」

白井「あなたはそれでも殿方の目がありますの！それに風紀委員として秩序を乱す行動は許しませんのですの！！」

雅布「お前が言つな！」

木山「ここで立ち話もなんだから涼しいクーラーの効いた場所に行
くか」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4207x/>

とある科学の超電磁砲？

2011年11月17日20時22分発行